

令和6年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	14	学 校 名	御殿場高等学校	校 長 名	西川 勝啓
------	----	-------	---------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

※達成状況の（ ）は昨年度数値

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	創造性を高めるとともに、深い学びにつながる授業の工夫とICTの活用を進める。	校内授業公開の実施（各自2回） （基礎力診断テストにおけるGTZゾーンについて）入学時の学年平均数値よりも卒業時の平均が上昇している状況を目標とする。 保護者の学習指導満足度（75%）	・校内授業公開週間を2回（6月と11月）実施した。 ・1年：基礎力診断テストに向け、対策用課題に取り組むとともに、各自で目標を立て実践するなど、基礎学力の定着を図った。 ・2年：基礎力診断テストに向け対策用課題を配布し、各自で目標を立て計画的に学習を進めるよう促すことで、基礎学力の定着を図った。 ・3年：基礎力診断テスト対策用に課題を配布し、各自に動機付けを促し、基礎学力の定着を図った。 ・学習指導に満足していると答える保護者は80.7%であった。	B	・校内授業公開週間では多くの教員が他教科の授業を参観し、お互いアドバイスし合うなど、自らの授業を振り返る良い機会となった。 ・1年：4月の平均GTZはC3-であった。（昨年C3-）またD3の生徒が16名いた。（昨年11名）学習の基礎・基本を定着し、毎回の授業を大切にしながら、前向きな学習習慣を高めていきたい。 ・2年：1年次4月の平均GTZはC3-、2年時4月はD1-と低下した。下位層のD3も1年次4月が11人から、2年次4月は23人と増加した。進路に対する高い意識を持ち日々の授業に取り組むよう、学習環境を整備していきたい。 ・3年：1年次4月の平均GTZはC3+、2年次4月はD1+と低下した。3年次4月はD1+であった。下位層のD3の人数は、1年次9人、2年次10人、3年次11人と横ばいであった。一生懸命取り組んでいた。 ・授業参観や学校ホームページ、SNS等で授業の様子を保護者に伝えていきたい。

		授業がわかると答える生徒（85%以上） 班やグループで活動するのは楽しいと答える生徒（85%以上） 全職員が生徒1人1台パソコンを活用した授業を行う。 授業で効果的に ICT 機器が使われていると答える生徒（85%以上）	・授業がわかると答える生徒は 83.3%であった。（82.7%） ・班やグループで活動するのは楽しいと答える生徒は 77.1%であった。（80.8%） ・ほとんどの職員が1人1台パソコンを授業で活用している。 ・授業で効果的に ICT 機器が使われていると答える生徒は 90.2%であった。（85.7%）	B	・授業で効果的に ICT 機器が使われていると答える生徒が90%を超えていることから、多くの教員が ICT を単に使う段階から、効果的に活用する段階になっていると思われる。 ・グループ活動については、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、問いの工夫や ICT の効果的な活用について実践を積み重ね、授業力向上を図っていく。
		資格取得・各種コンクールへの挑戦（年2回以上）	・E科（創造工学科）：全国工業校長協会検定試験（計算技術検定、情報技術検定、基礎製図検定）第二種電気工事士、品質管理検定やフォークリフト、溶接、高所作業車等の技能講習において、計画通りに実施できた。 ・B科（創造ビジネス科）：各種全商検定試験（ビジネス計算、簿記、ビジネス文書、情報処理の各2回、商業経済の1回）の検定や日商簿記検定の3回等の検定において、計画通りに実施できた。また、複数のビジネスプランコンテスト等に参加することができた。 ・D科（生活創造デザイン科）：家庭科技術検定、サービス接遇検定、給食コンクール、ふじのくに未来デザイン、高校生デザイングランプリに挑戦することができた。	A	・E科：来年度も引き続き、各種検定試験技能講習を継続して実施する。 ・B科：来年度も引き続き、各種検定試験を継続して実施したい。また、各種コンクール等にも積極的に参加したいと考えている。 ・D科：コンクールは、授業内容を深められるものをさらに厳選していきたい。

イ	体験しながら主体的に物事を考える機会を通して、豊かな心や感性を高める。	人権、情報モラル、交通ルール・マナー、芸術鑑賞教室、各学科の専門等に関する講演をそれぞれ1回以上実施	・生徒対象の人権講話（思春期講座）を実施した。（11月） ・情報モラルに関する講演を、1年生対象に御殿場警察署から講師を招き実施した。（4月） ・交通安全講話を全校生徒対象に実施した。（4月） ・自転車安全指導カードの発行状況は97人（11月末）で前年同時期より減少した（-26件）。また、並進、通行区分違反も減少した。 ・交通事故件数は昨年より1件減少して7件であった。（12月末） ・芸術鑑賞教室を11月に御殿場南高校と合同で実施した。アンケートではほぼ全員の生徒が、満足したと回答した。 ・E科：3年生の課題研究において地域の木材加工業者を招き、指導・助言を受けた。（計3日、9時間） ・B科：観光コースの授業において、御殿場みくりや倶楽部の代表の方等に年間10回程度の講演を実施した。また会計コース、選択授業においても外部講師を招き講演を実施した。 ・D科：保育分野（リトミック、劇創作）や革細工の講習を行うことができた。	A ・次年度も引き続き実施したい。状況に応じて、オンラインでの実施も考慮したい。 ・交通講話や登校指導、何よりも日頃の交通ルール・マナーの遵守の指導により、昨年より減少した。今後も継続的に指導していくとともに、自転車ヘルメット着用率が上がるように呼び掛けていきたい。 ・次年度は小山高校と合同で開催予定である。行事成功のために、担当者同士の連携を密に行っていききたい。 ・E科：制作した作品を御殿場市立御殿場東小学校へ寄贈した。生徒は使う人の利便性や安全性を考慮した作品の制作を体験し、喜んでもらえたことでものづくりの楽しさを体験することができた。 ・B科：教育的効果も高いため、来年度も引き続き、どのコースの授業においても講演（授業）を検討したい。 ・D科：生徒に効果的な講演講習会が今年度以上にできるよう予算の検討をお願いしたい。
---	-------------------------------------	--	---	---

		読書に積極的に取り組んでいると答える生徒（80%以上）。	・「読書に積極的に取り組んでいる」と答える生徒は 67.0%であった。	B	・朝読書の実施、図書館の分館を本館内に設置、図書委員会の活動を通した啓蒙活動等の手だてを行っているが、なかなか成果に結びつかない。
		継続活動している生徒（99%以上） 充実した部活動ができているという生徒（80%以上）	・継続活動していると答える生徒は 86.6%であった。 ・充実した部活動ができていると答える生徒は 82.0%であり、昨年度より増加した。（67.5%） ・消極的な転部は7名。運動部への転部が4名であった。女子生徒の運動部離れが顕著である。	B	・顧問の先生方の指導により、部活動の取り組み状況は概ね良好と言える。しかし生徒減や教員減に伴い、部活動規模は縮小している。女子の運動部離れは喫緊の課題である。生徒のニーズに応えながら成長を促す活動となるように努めていきたい。
		施設等との交流の継続 交流報告会等の実施（年1回以上）	・E科：御殿場特別支援学校との交流事業において、受動歩行ロボットの製作体験を実施した。 ・B科：御殿場特別支援学校との交流事業において、クリスマスカードの製作体験を実施した。 ・D科：御殿場特別支援学校との交流授業を行うことができた。デザイン科では、3年生が担当し、絞り染め、クリスマスツリー製作を行った。	A	・E科：生徒はどのように説明したら安全に作業することができ、ロボットを歩行させることができるか考えながら準備し、当日も丁寧な対応ができた。 ・B科：生徒は、パソコンのワープロ機能について、実演を交えてわかりやすく説明すると同時に、特別支援の生徒と積極的にコミュニケーションを行い丁寧な対応ができた。 ・D科：今後も継続したい。
		主体的に御高祭に参加できたと答える生徒（90%以上）	・主体的に御高祭に参加できたと答える生徒は 93.0%であった。 ・御高祭の生徒満足度は 99.7%、教員から見た生徒の取り組みも 100%肯定しており、良い結果となった。展示ブースをコンパクトにするなど工夫がなされた。	A	・展示方法や発表に工夫がなされ、大成功であった。日頃の成果発表と情報発信ができるように、さらに内容を検討していきたい。

様式第 3 号

		充実した修学旅行であったと答える生徒 (90%以上)	・生徒アンケート「修学旅行全体の満足度」への回答は「非常に良かった」「良かった」の合計 99.1%。 ・平和学習に比べ、班別研修（長崎市内、ハウステンボス、大阪市内、USJ）に対する充実度が特に高かった。	A	・LHR 等で事前学習の時間を多く確保し、平和学習や長崎市内研修をさらに充実させるべきと考える。 ・生徒は集合時間をきちんと守り、体調不良や事故、トラブル等もなく、良い修学旅行となった。
ウ	身体能力の向上と教育相談の充実を図る。	クロスカントリー完走者(全員) 新体力テスト（優良校）	・クロスカントリー大会では、毎授業において練習カードを用いて計画的に取り組むことで体力、記録の向上が図れ、大会での棄権者も少なかった。 ・新体力テストにおいても記録カードを活用した効果的な指導により、男女とも優良校を達成できた。	A	・集団行動を含めた規律正しい指導と練習カードにより、計画的で前向きな取り組みが実践できた。今後も毎時間のトレーニングを徹底することで、さらに体力の向上を図っていきたい
		自分の体調（不調や課題）を把握し、Cラーニングに入力することができる。 健康診断の結果を健康維持や改善に役立てることができる。 （要受診者の受診率 50%以上） 年間欠席日数 3 日以内の生徒 80%以上	・ほとんどの生徒が毎日入力することができた。 ・要受診者の受診率は、昨年より 6 %増加の 21.6 %であった。（15.6%） ・出停は除く年間欠席日数 3 日以内（不登校、長期病欠、転学者は除く）の生徒は 60.6 % (197 名) であった。（78%）	B	・C-learnig の入力はほとんどの生徒が入力できていた。来年度へ向け、本校はメンタル不調を訴える生徒が多いため C-learnig の設問にメンタルの状態を問う設問を追加し、不調の早期発見に繋がる設問に変更していきたい。 ・健診の要受診者の受診率は昨年度より上昇している。引き続き呼びかけを行っていきたい。 ・年間欠席日数が 3 日以内の生徒については昨年度より低下している。不登校生徒の増加が原因として考えられる。今後も教職員で情報共有を密にし、生徒の困り感を軽減できるようにしていきたい。

		不登校生徒に対する相談体制の充実 必要に応じて外部機関との連携を図る。 特別支援教育に関する教職員研修の実施（1回以上） 個別の指導計画に基づく情報共有の推進 道徳教育の推進	・不登校、学校や家庭生活への不安など生徒の状況に応じて教員間で連携を取り、対応ができた。 ・必要に応じて管理職が外部機関に連絡をし、対応ができた。 ・特別支援教育に関する教職員研修を年度当初に開催することができた。	A	・様々なケースを抱える生徒が増えている中で、教職員で連携を取って対応することができた。今後も生徒の実態に応じて、スピード感を持って対応していきたい。 ・スクールカウンセラーの助言が大いに役立った。
エ	地域連携とキャリア教育を通して、生徒一人ひとりの特性を生かした進路指導の実現及び政治的教養への意識の向上を図る。	進路指導に満足していると答える生徒（95%以上） 進路先に満足していると答える生徒（95%以上） 支援を要する生徒の進路指導に関する保健課との連携の推進	・3年生進路アンケートによると「学校の進路指導に満足している」と答える生徒は98.8%（95.2%）、「進路先に満足している」と答える生徒は98.8%（98.6%）であった。概ね目標を達成することができた。	A	・引き続き、進路満足度の向上を図りたい。進学指導の見直しはもちろんのこと、支援を必要とする生徒への指導についても他部署と連携し進めたい。 ・進路行事（インターンシップ・企業見学等）を積極的に進めたい。
		チケット発行枚数（前年比5%減）	・チケット発行枚数は45枚（12月末）であった。昨年度は12月末で90枚であったので約半減したと言える。 ・冬になり、今後増加することが予想されるが未然防止に努めたい。	B	・教員、生徒が共通理解を図り、公平な指導により正しい着こなしに結び付いたと言える。初期指導や服育講話も効果的であった。 ・不注意による違反をなくすることが今後の課題である。女子の化粧や冬服違反が増加した。
		出前講座・公民館講座等の実施及び地域行事への参加（各科5回以上）	・E科：ごてんば産業フェアにおいて、主に地域に小学生を対象とした受動歩行ロボット製作体験を実施、コミセンでの木工体験講座への運営補助等を実施した。 ・B科：ごてんばの日、ごてんば産業祭、御リンピック、ごてんばつ木、駅まえ〜る、農協祭、足柄SAパンマルシェなど多数の地域行事に参加し、物販や木育、イベント企画などを行った。	A	・E科：生徒は自分が指導する立場になったとき、どのような点に注意すればよいのか、相手にものづくりの楽しさを実感してもらうためにはどうしたらよいのか考え、実行することができた。 ・B科：生徒は観光コースに限らず、他学年の行事にも積極的に参加し、自分たちのできることを創造しチャレンジする力を育成できた。次年度についても、複数回の実施に向け内容を精査しながら継続したい。

			・D科：公民館での出前講座、地域行事として御殿場市の産業フェアに参加した。		・D科：今年度は出前講座の依頼が少なかったが、参加した生徒は意欲的に取り組んでいた。
		地域の企業等と連携した教育活動の推進 (連携団体2か所以上)	・E科：シモンズ富士小山工場を訪問し、ベッド等の製造工程を見学し、担当者から企業理念・製品を製造する上で重要なことについて説明を受けた。 ・B科：観光・商品開発の授業において、御殿場市役所や御殿場総合サービス、御殿場市観光協会、大田屋等との連携を図ることができた。また、アイザワ証券、プロスペラ学院ビジネス専門学校との連携を図ることもできた。 ・D科：1, 2年生希望者に市役所、虎ノ門グループとの共同企画SDGs保育体験を実施できた。3年生では保育部分案実習のために市内保育園幼稚園3ヶ所で実習を行った。軍手人形の披露、手袋シアター、自作劇の披露と保育園の劇衣装のリメイクもできた。	A	・E科：次年度も継続して、地域・企業との連携を図りたい。 ・B科：次年度も継続して、地域・企業との連携を図りたい。 ・D科：引き続き、地域連携を深めたい。
		地域防災訓練参加率 (70%以上) ふじのくにジュニア防災士100取得	・インフルエンザの流行や人数制限がされた地域もあり、地域防災訓練参加率は54.7% (57.3%)、ふじのくにジュニア防災士取得率は98.2%であった。	B	・次年度も地域と連携を図りながら訓練参加を進めていきたい。

		創造探究(総合的な探究の時間)をとおして自らの生き方や地域の課題について考えることができた と答える生徒(80%以上)	・「創造探究(総合的な探究の時間)をとおして自らの生き方や地域の課題について考えることができた」と答えた生徒78.3%であった。	A	・目標の80%にはわずかに届かなかったが、ほぼ達成できた。一方で、担任や副担任の負担感もあり、内容については修正を加えていきたい。
オ	教職員、生徒、保護者及び地域の視点から、信頼され、安心できる教育環境づくりを進める。	体罰・不祥事などの 服務事故発生(0件)	・不祥事根絶研修を毎月実施し、コンプライアンスや交通安全意識の維持・向上に努めた。	A	・引き続き、県教委からの通知(コンプライアンス通信)等を活用した校内研修を継続・充実させ、体罰や不祥事、交通安全等に対する高い意識を維持するよう努めていく。
		交通安全ゼロメーターの設置など教職員の安全意識を高め、交通事故0件とする。	・体罰・不祥事などの服務事故0件、交通事故0件であった。	A	
		監査・検査時の指示・指摘 (0件) 学校経営予算の執行残(0.5%)	・チェック・確認体制が機能し、1年間通して監査・検査時の指示・指摘が0件であった。 ・学校経営予算は適切な時期での執行を進め、計画どおりに執行できる見込みである。	A	・引き続き適正な会計処理に努めるとともに効果的な予算執行を進める。
		校内施設の危険個所や防火等に関する安全点検を月1回以上 備品現有確認(1学期中) 文書整理・不要品処分(年3回)	・施設点検を月1回以上行い、更に業者の点検時に同行するなどして保全に努めた。 ・備品の現有確認を計画どおり行い、更新等整理計画を検討した。 ・文書整理や不用品処分は計画実施とともに随時に行うことができた。	A	・引き続き職員相互での情報共有し、設備等の保全に努める。 ・保有設備や備品の有効活用を目指す。
		学校HP・SNS更新(週3回以上) 中学校との連携回数を増やす。 保護者の広報・連絡等満足度(70%)	・学校生活(行事や部活動など)のSNS投稿は活発に行われた。 ・御高を知る会や御高PR大使(生徒)等により、中学校との連携を積極的に行った。 ・広報・連絡等に満足していると答える保護者は82.8%であった。	B	・引き続き、多くの職員が学校HPやSNS等を活用し、学校生活の様子を保護者や中学校へ伝え、本校の魅力をアピールして行きたい。 ・県教委により、学校HPのシステムが1月に切り替わったため、新たにHPの簡易マニュアルを作成している。

		信頼できる教員がいると答える生徒(80%以上) 校内でいじめや嫌がらせを受けたことがあると答える生徒(0人) 入学させて良かった保護者満足度(85%)	・信頼できる教員がいると答える生徒は74.7%であった。 ・11月末に実施した安心安全アンケートで「校内でいじめや嫌がらせを受けたことがある」と答えた生徒は15名であった。(1年3名、2年7名、3年5名) ・入学させて良かったと答える保護者は81.7%であった。	B	・生徒が多様化する中、個に応じた指導を心掛け、相談体制を充実させることで、安心安全な学校づくりを目指して行く。 ・15名中「既に解決している」と答えた生徒は7名。残り8名は各HR担任が聞き取り、対応した。今後も教職員で連携し、生徒が安心して生活できる環境づくりを進めていく。
		学校運営協議会を活用し今後の学校経営に生かす。	・学校運営協議会において、学校経営計画や現在の学校における課題等について、様々な立場から多くの御意見を聞くことができた。	A	・学校運営協議会で出された貴重な御意見を今後の学校経営等に生かし、さらに魅力ある御殿場高校を目指して教育活動を行っていく。
カ	教職員の働き方の適正化と同僚性を構築する。	勤務時間管理システムを効果的に活用する。 カリキュラム・マネジメントの観点による行事の精選 週1回定時退庁日の設定 会議・研修の持ち方を検討する。	・毎月、勤務時間管理システムへの入力と呼びかけ、時間外勤務時間の多い職員については、産業医へ報告し指導助言を受けている。 ・定期テスト期間や面接週間を短縮し、保護者地区会を廃止した。 ・毎週水曜日を定時退庁日とし、呼びかけている。 ・放課後に行われる会議や研修については、勤務時間内に終わるよう内容を精選して行った。	B	・自身の働き方や昨年との比較をするために、勤務時間管理システムはとても有効であるため、今後も正しい入力と呼びかけていく。 ・生徒数減少に伴い教員数も毎年減っているため、安全面等も考えながら学校行事について検討が必要である。 ・定時退庁日を意識することで、業務を計画的に進めるよう呼びかけていく。 ・会議や研修におけるICTの効果的な活用について検討する。